

都立総合工科高等学校 定時制 平成31年度 年間指導計画

平成31年4月26日

学年	1	教科	地歴	科目	世界史A	単位数	2	区分	必修得
----	---	----	----	----	------	-----	---	----	-----

教科書	新版 世界史A(実教出版社)
副教材	

担当教諭氏名	藤田 和希
--------	-------

教科・科目の目標・ねらい
<p>①大航海時代から世界のグローバル化が進展することを理解する。 ②ヨーロッパ近代の確立と帝国主義化の過程を日本とも関係付け考察できる。 ③第二次世界大戦の要因とそれによる影響を考察できる。</p>

評価のねらい・観点
<p>①歴史は世界、日本と隔てたものではなく、相互に密接にかかわることだと認識できる。 ②定期考査、授業プリント、平常点から鑑みて評価する。</p>

	予定時数	指導内容
1 学期	27	I ユーラシアの諸文明 (1) 西アジアと地中海 (2) 東アジア (3) ヨーロッパ世界
2 学期	28	II 一体化する世界と日本 (1) ルネサンスと大航海時代 (2) 欧州・アメリカの諸革命と世界の変動
3 学期	15	地球社会と日本 (1) 現代世界のあゆみ (2) 第二次世界大戦後の世界
学年計	70	

その他

都立総合工科高等学校 定時制

平成31年4月26日

学年	2	教科	公民	科目	現代社会	単位数	2	区分	必修得
----	---	----	----	----	------	-----	---	----	-----

教科書	高等学校 新現代社会(帝国書院)
副教材	

担当教諭氏名	藤田 和希
--------	-------

教科・科目の目標・ねらい	
①現代の社会と人間についての理解を深め、現代社会の基本的な問題について主体的に考察し判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考察できる。 ②時事問題とも関連させ、適切な情報を収集し、客観的に判断することができる。	

評価のねらい・観点	
①現代社会は日常的にかかわる科目でもあるため、授業だけでなく普段の生活や事象から思案できる。 ②定期考査、授業プリント、平常点から鑑みて評価する。	

	予定時数	指導内容
1 学期	27	I 私たちの生きる社会 II 現代社会のしくみと私たちの生き方 1 青年期と自己の形成 (1) 青年期の意義・課題 (2) 日本人の考え方と伝統・文化 (3) 自己実現の意義・方法
2 学期	28	2 現代の民主政治と民主社会の倫理 (1) 民主社会の原理と日本国憲法 (2) 日本の政治機構と政治参加 (3) 平和主義と安全保障について
3 学期	15	3 現代の国際社会と日本の役割 (1) 国際政治の動向と平和の追及 III 共に生きる社会
学年計	70	

その他

都立総合工科高等学校 定時制

平成31年4月26日

学年	3	教科	地歴	科目	日本史A	単位数	2	区分	必修得
----	---	----	----	----	------	-----	---	----	-----

教科書	高等学校 日本史A(第一学習社)
副教材	

担当教諭氏名	藤田 和希
--------	-------

教科・科目の目標・ねらい	
1	近現代の歴史的事象と現在との結びつきを考える活動を通して、歴史への関心を高め、歴史を学ぶ意義に気付かせる。
2	開国前後から第二次世界大戦終結までの政治や経済、国際環境等について、相互の関連を重視して考察させる。
3	第二次世界大戦後の政治や経済、国際環境等について、現代の諸課題と近現代の歴史との関連を重視して考察させる。

評価のねらい・観点	
①	わが国の近現代の歴史の展開を地理的条件や世界の歴史と関連付け、現代の諸課題に着目して考察できる。
②	定期考査、授業プリント、平常点から鑑みて評価する。

	予定時数	指導内容
1 学期	27	I 近代以前の日本のあゆみ (1) 江戸の形成 (2) 幕末日本 II 近代の日本と世界 1 近代国家の形成と国際関係の推移 (1) 近代への胎動 (2) 明治維新 (3) 近代国家の形成 (4) 国家関係の推移と近代産業の発展
2 学期	28	2 両大戦をめぐる国際情勢 (1) 第一次世界大戦と日本 (2) 第二次世界大戦と日本
3 学期	15	III 現代の日本と世界 (1) 独立後の政治と経済の発展 (2) 現代の日本と世界
学年計	70	

その他

都立総合工科高等学校 定時制

平成31年4月26日

学年	4	教科	公民	科目	現代社会	単位数	2	区分	必修得
----	---	----	----	----	------	-----	---	----	-----

教科書	高等学校 新現代社会(帝国書院)
副教材	

担当教諭氏名	藤田 和希
--------	-------

教科・科目の目標・ねらい	
<p>①現代の社会と人間についての理解を深め、現代社会の基本的な問題について主体的に考察し判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考察できる。</p> <p>②時事問題とも関連させ、適切な情報を収集し、客観的に判断することができる。</p>	

評価のねらい・観点	
<p>①現代社会は日常的にかかわる科目でもあるため、授業だけでなく普段の生活や事象から思案できる。</p> <p>②定期考査、授業プリント、平常点から鑑みて評価する。</p>	

	予定時数	指導内容
1 学期	30	I 私たちの生きる社会 II 現代社会のしくみと私たちの生き方 1 青年期と自己の形成 (1) 青年期の意義・課題 (2) 日本人の考え方と伝統・文化 (3) 自己実現の意義・方法
2 学期	30	2 現代の経済と国民の福祉 (1) 市場経済のしくみ (2) 豊かな社会の実現させるために
3 学期	10	3 現代の国際社会と日本の役割 (1) 国際経済の動向と格差の解消 III 共に生きる社会
学年計	70	

その他	